

令和5年度 和光市立白子小学校 学力・学習状況調査結果について

5月に実施した全国学力・学習状況調査（6年生対象）及び埼玉県学力・学習状況調査（4・5・6年対象）について本校の結果概要をとりまとめましたのでお知らせします。

1 分析結果概要

本調査項目は多岐に渡るため、本校が近年特に重視している以下5項目の分析結果について報告致します。

「学力の伸び方」※5・6年生のみ

児童一人一人の学力が昨年度調査時からどのくらい伸びているか

「主体的に学んでいる」度

「他者に与えられた問題を解決していく学び」ではなく、事象や事柄について子ども達自身が「どうしてだろう?」「考えてみたい!」という問題意識をもち、解決していく学び

「対話的に学んでいる」度

「他者に教えられて理解する学び」ではなく、既習事項をもとに他者との対話を重ね、地道に納得解をつくり上げていく学び

「深く学んでいる」度

「知識や解法を覚える学び」ではなく、物事を多様な視点や関係の中で捉えたり、感覚的に理解していた事柄をより深く認識したりする学び

「タブレット使用頻度」

学校と家庭における昨年度の児童用タブレット使用頻度

(1) 「学力の伸び方」について

- ・国語・算数とも多くの児童が着実にレベルアップしており、学年相応の伸びが見られる。

(2) 「学力の伸び方」と「主体的～」「対話的～」「深く～」度との関連について

5・6年生

- ・主体的に学んでいる子ほど、学力の伸びが大きい。
- ・対話的に学んでいる子ほど、学力の伸びが大きい。
- ・深く学ぶことを大切にしている子ほど、学力の伸びが大きい。

4～6年生

- ・主体的に学んでいる子ほど、対話的に学ぶことができている。
- ・対話的に学んでいる子ほど、深く学ぼうとする意識が高い。
- ・深く学ぼうとしている子ほど、主体的に学ぶことができている。



(3) 「タブレットの使用頻度」と上記4項目との関連

- ・5・6年生共、「タブレット使用頻度」と「学力の伸び」に、おおむね関連性は見られない。
- ・「タブレット使用頻度」と3項目（「主体的～」「対話的～」「深い～」）について、

5・6年生…おおむね関連性は見られない。

4年生…使用頻度が高い子ほど、全3項目共高くなっている。

2 分析結果を受けて



(1) 学校における取り組み

①授業について

今後も引き続き、「子どもたちが、問題意識を高め、既習事項をもとに思考・判断し、対話を重ねながら課題を解決していく授業」を、追究・実践して参ります。例えば、「課題や振り返り、まとめを子ども自身の言葉で言語化させる授業」や「子どものつぶやきや気づきを拾い、それを教師が価値づけたり、子ども同士で共有させたりする授業」の在り方等について、全職員で共有を図っていきます。

②児童用タブレットの活用について

昨年度より本校では「主体的な学びにおける ICT 活用の在り方」について研究しております。全国的に児童用タブレットの活用が始まって数年たち、効果的な実践事例や活用におけるポイント等が徐々に明らかになってきています。児童用タブレットをどのように活用することが学力の伸びにつながるのか、白子小の子どもたちの実態と向き合いながら、よりよい活用方法を今後も模索し続けます。

(2) ご家庭でお願いしたいこと

ご家庭で学習について子どもから質問された際は、やり方や正答を教えるのではなく、「どこまでならできそう？」等と問いかけながら、ぜひ隣で一緒に考えてあげてください。もしご家庭で時間をとるのが難しい場合は、ぜひ「明日先生に質問しておいで」と促してあげてください。そして帰宅後に説明を聞き、説明できるようになったことをたくさん褒めてあげてください。

適切な援助要請ができるように促すことや、「自分がどこまで理解しているのか」を認識させること、対話の中で既習事項を振り返りながら考える経験を積ませること等は、時間も手間もかかるため非効率的だと思われがちです。しかし、このような経験こそが、中長期的にみると学力を高める上でとても重要なプロセスになります。子ども達が生涯を通じて学ぶ喜びを感じてゆけるよう、子ども達の疑問や思考に、共に寄り添っていきましょう。

今後も、以上の分析結果をもとに日々の教育活動を見直し、児童の更なる学力向上に努めてまいります。保護者の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

